

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京YWCAキッズガーデン		
○保護者評価実施期間	2025年11月29日		～ 2026年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	2026年2月12日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達から持ち上がる子がほとんどなので、子どもの特性を理解できている前提でスタートすることができる。	ひとりひとりの特性を活かしたプログラム内容の構築の可能性が広がるとともに、利用児・保護者とのさらなる信頼関係を深めることができる	利用児・保護者同士の関係性が成人後も継続できるような関係性の醸成。イベントの活用。
2	児童発達との多機能型で長年にわたって通い続ける、または関係性を大事にする保護者が多い。	親の会の取り組みもあり、親同士のサポートから学年を超えてかわり支えあう関係ができる。	重層的な関係作りから親も子も一人ひとりが大切にされ尊厳が守られるような空気をさらに醸成していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	土曜日のみの変則的な実施により、できることが限られる。	児童発達を卒業した希望者が多く、平日の児童発達を優先する体制のため、別の開催方法は難しい。	一回一回が特別な経験を積む大切な機会として共有しようとする気持ちをさらに醸成する
2	報酬単価の低さと質の担保が見合わない	定員30名の児童発達支援センターとの多機能型のため、放デイの単価が極端に低いが、継続する限りは逃れられない課題	対象となる子どもの要件の見直しや提供の仕方など、ニーズに合わせた対応が必要になっている
3	子どもの状況に合わせた職員の配置	男児が多い中、男性職員の配置が難しいことがあり、児童発達の職員がヘルプで対応することもある。	男性職員の採用が急務